

第26回 harappa 映画館

弘前出身、木村文洋監督特集

青森から東京へ——もうひとつの家族」の物語

☆最新作『息衝く』

国内初上映

12月2日 [土]

10時30分 『息衝く』

14時30分 『へばの』

16時30分 『息衝く』

弘前中三8F

スペースアストロ

◎チケット各回入替制

前売 1000円 (当日 1200円)

学生・会員 500円

《取扱》

弘前中三、紀伊國屋書店、弘前大学生協

まちなか情報センター、コトリcafe (百石町展示館内)

cinema

主催/NPO法人 harappa 問合せ/harappa 0172-31-0195 post@harappa-h.org
「平成29年度 弘前市市民参加型まちづくり1%システム」対象事業



harappa映画館 弘前出身、木村文洋監督特集

青森から東京へ — 「もうひとつの家族」の物語

2008年、木村文洋監督は青森県六ヶ所村核燃料再処理工場のそばに生きる男と女の別れ、そして再会の物語を世に問うた。この物語『へばの』はまた、六ヶ所村に生きることを選択した父と娘の「家族」の物語でもあった。その二人には、東京に移住して生き別れになっている妻と息子（母と兄）がいた…

2017年、木村監督はついに、東京で暮らす母と息子—「もうひとつの家族」を描き出す新作『息衝く』を完成させた。舞台は東日本大震災から数年後の東京、夏。かつて青森から移住してきた主人公を含む三人の男女と、彼らを取り巻く人々ひとりひとりの肖像が私たちの前に投げ出される。宗教活動と政治活動の挫折、裂け目の入ったままの家族、交錯する風景と時間と記憶… まだ誰も見たことのない映画がここにある。

harappa映画館は、どこよりも早く、新作『息衝く』を上映する。この映画の前篇ともいべき『へばの』とともに見ることにより、私たちは未曾有の体験に目が眩むに違いない。



息衝く ☆国内初上映／各回上映後シネマトーク

脚本：木村文洋、杉田俊介、兼沢晋、中植きさら、桑原広考 撮影：高橋和博

出演：柳沢茂樹、長尾奈奈、古屋隆太

2017年 / 日本 / 130分

東日本大震災から数年が経過した夏の東京。新興宗教団体「種子の会」の青年信者・則夫と大和は、「種子の会」を母体とする政党「種子の党」の選挙戦に駆り出される。則夫と大和とともに、自衛隊派兵を機に失踪したかつてのクリスマのリーダー・森山を師としていた。選挙活動のさなか、則夫は幼少期を共に過ごし思い焦がれていた慈（よし）と再会し心が揺れ動くが、同居する母・悦子の最期が近づいていた。則夫と悦子は、青森県六ヶ所村から東京に移住し、父と妹と20年以上会っていなかった…

シネマトーク／10:30 回上映後「木村文洋監督、同世代と語る」
16:30 回上映後「『息衝く』徹底分析」



へばの ☆上映前舞台挨拶

脚本：木村文洋 撮影：高橋和博

出演：西山真来、吉岡睦雄、長谷川等、工藤佳子、木村絹代

2008年 / 日本 / 81分

青森県六ヶ所村に住む紀美は、再処理工場で働く治との結婚を間近に控えていた。しかしある日、治は作業中にプルトニウムの内部被曝に襲われる。同じ工場で働く紀美の父・大樹は、二人の間に生まれるであろう子供への影響を心配し、二人の結婚に反対する。紀美は治と一緒にいたいと願うが、治は突然姿を消す。三年の歳月が流れ、治が戻ってきたという噂が流れる…



ゲスト／木村文洋

1979年弘前市生まれ、弘前高校卒業。京都大学在学中の1998年より自主映画の制作を始め、2000年より京都国際学生映画祭の運営に参加、2003年運営委員長となる。大学卒業後、映画監督の井土紀州らに師事、井土監督の『ラザロ』（2007年）のプロデューサーなどをつとめる。

長編初監督作品が『へばの』。第二作『愛のゆくえ（仮）』（2012）は、第25回東京国際映画祭「ある視点」部門上映。harappa映画館でも2013年に上映された。『息衝く』は第三作。

◎チケット予約／件名を「harappa映画館」とし、お名前、電話番号、メールアドレス、希望券種・枚数を記載の上、E-mail (post@harappa-h.org) または電話 (0172-31-0195) にてご予約ください。

◎中三 徒町駐車場をご利用の方は、中三営業時間内（10時～19時）サービスとなります。1F 案内所にて駐車券および半券をご提示ください。8F・上映会場受付ではご対応できませんのでご了承ください。16時30分の回をご覧になる方は、上映後は対応できませんので、上映前までに案内所においてください。